

第 22 回国際統一思想シンポジウム

「諸科学の統一と統一思想:統一思想に基づいた学問にむけて」

2010 年 12 月 3 日—12 月 6 日

千葉・浦安・一心教育院

み言葉医学に関する研究

金 振春

清心神学大学院院長

統一思想研究院

み言葉医学に関する研究

清心神学大学院大学校教授
キム・ジンチュン

I. 序論

健康は生存と安寧と完全さの基礎となる。健康の土台の上で幸福が実現され、幸福の土台の上で平和が実現される。従って、健康は心と体、個人と家庭と社会と国家と世界、地上世界と霊界、そして地上人と霊人に至るまで、人生のすべての領域にまたがる包括的概念である。

筆者が新しく導入する「み言葉医学」という用語はまだなじみが薄く、その理論体系も本研究を通して初めて試みられるものである。今までは神様のみ言葉は信仰と学問と観を定立して理解し、疾病を理解して予防する次元であった。しかし本研究では神様のみ言葉自体がこのような次元を越えて、病気（特に重病、不治の病など）を実質的に「治療」できることを明らかにし、その適用事例として糖尿病の治療を考察する。

神様のみ言葉自体が病気を「治療」できるということは神様の創造理想と摂理が「健康」という名で現実の人生の中に実体化され得ることを示唆する。何故なら全世界的に多くの人々が精神的肉体的疾病によって苦痛の中に生きており、幸せな人生を過ごすことができないためである。み言葉医学は既存の医学（西洋医学、東洋医学、代替医学）を包容しつつ、文鮮明先生を通して啓示された膨大なみ言葉の核心たる「完全な神様のみ言葉」に基づく。そして、み言葉医学は疾病治療のみならず、より本質的には地上人と霊人が共に真の健康（創造本然的人生）を探して、健康→幸福→平和という理想世界（天一国）定着の礎石をたてるどころにある。

II. み言葉医学の背景

1. 既存医学における全人医学

1) 既存医学における心身治療

(1) 西洋医学と東洋医学から見た心身関係と心身医学

西洋医学は心（精神）と脳（神経）の関係を重要視する。脳は人を人間らしくする重要な器官として、考え、判断し（知）、悲しみ・楽しみ・怒りを感じ（情）、それらを意識的

に統制する（意）。脳は心すなわち情知意の機能に一次的に感応する場である。そして脳と体はいつも一つであり、少しのずれも容認しない。つまり、脳は正確な判断と命令をし、体は脳に忠実に従うようになる。

東洋医学でも心と体の相関関係は重要である。人間の心と体は互いに影響を及ぼしあうために、精神的問題が肉体に異常を引き起こし、肉体的病気が精神的弊害をもたらすと見る。東洋医学では急激な感情の変化が病気を誘発し、度が過ぎて抑制されることが出来ない感情も気の流れの異常をもたらす、望ましくない感情状態・緊張状態が長く持続すれば発病（長期損傷）になると見る。特に、東洋医学は西洋医学と違い、7種類の感情が特定された臓器（五臓）に相関関係を持って影響を与えると説明する。

「秘密」(The Secret)にも西洋医学と東洋医学の精神（心）と身体（体）の相互有機的関係が強調される。み言葉医学は神様のみ言葉の中に宿った天心、すなわち内的性相（心情と情・知・意）と内的形状（観念・概念・法則・数理性）が生心→肉心→中枢神経→末梢神経/ホルモン→器官→細胞→細胞核のDNAに伝達されることによって、神様の心（天心）は人間の心（人心）を通して、体全体に影響を与える。

西洋医学における心身医学（Mind-body medicine）は患者に精神と肉体の奥深い相関関係を認識させて、治療過程では患者自身が本来持って生まれた人体の自然治癒能力を自ら発揮するようにすることによって治療効果をもたらす。心身医学はすべての病気が心から始まるというところに基本原理を置いており、人体が持った自然治癒力を増進させて、治療効果を得ようとする。心身医学は瞑想療法、心象療法、催眠療法、ヨガなどを含む広範囲な形態の治療方法を活用する。

(2) 瞑想療法と心象療法およびNLP療法

瞑想療法は瞑想を通じて肉体的・精神的・感情的バランスを取ることによって治療する。すなわち静かに座って、意識的な腹式呼吸（丹田呼吸）を通して、体と心を安らかに安定させて、心の否定的な考えを除去する。

心象療法（イメージ療法）は瞑想によって完全に弛緩した状態で実施し、心の力で病気から抜け出ていくように想像することによって病気を治癒する。すなわち緊張を解いた状態で自身が願う状況と目標を頭の中で具体的かつ明確にイメージで描いた後、現在受けている治療が具体的に病気を治癒する状況を心の中に描く。そして体内にある自然治癒力が健康を回復させるために活動している状況を具体的に視角化する。自己の身体が健康を回復するイメージと、病気が発生する前に持っていた自然治癒力が自分にあるというイメージを描く。（イ・ウンチョル他、211）

NLP療法（neuro-linguistic programming therapy）は患者自身の視角を変えるために患者の言語を精密に観察・分析しながら、話をする時、患者の表情・身振り・皮膚の色・唇・声・呼吸なども厳密に観察・分析して、診断と治療に適用する。観察・分析された資料を通して、患者の心的連想を新しくデザインして、言語使用、行動校正、映像法などを利用して、否定的認識を肯定的認識に変える。（チョン・セイル、183-184）

(3) 量子医学 (Quantum medicine)

量子医学は量子物理学の基本原理解たる粒子-波動の二重性と測定理論を適用した医学である。

波動医学は人体の微細な生体磁気場すなわち微細電磁波 (subtle electromagnetic wave) を測定して調節することによって病気を診断して治療する方法である。すなわち人体の各臓器は固有な波動 (振動数と波形) を持っている、この波動を調節すれば病気を調節することができるを見る。

量子医学では病気を肉体的構造、情報-エネルギー場、心 (心性) の三つの側面で診断して治療する。情報-エネルギー場は人体のすべての部位を一つに連結し、超高速で情報を伝達して、自ら自然治癒して、自己を組織させる。従って人体を構成する分子、細胞、臓器、組織が持っている固有の情報-エネルギー場 (波動的な姿) を解釈することによって病気を診断することができ、人体の部分的な情報-エネルギー場を利用して、人体の全体的な病気を診断することができる。治療においても遺伝子、細胞、臓器、組織、肉体の情報-エネルギー場を利用して、病気を治療する。すなわち波動発生装置を利用して、特定波動 (健康な状態の固有振動数と pattern) を体の情報-エネルギー場 (波動状態) に反復的に与えることによって、波動の共鳴現象を利用して、病気状態の振動数と波形を健康状態の振動数と波形に変えることで病気を治療する。(カン・ギルチョン、55-150)

2) 既存医学における霊性治療

既存医学では悪霊の活動を重要視する。すなわち、すでに死んだ人 (死者、霊人) の中には地上人の体の中に入ってきて、病気と苦痛を与えている悪霊達がいるとみる。これらを整理整頓しなければ、心が善に帰ることができず、体も元気な体に帰ることができない。ユー・ファジャは、医学的ななんらかの明らかな理由がなく、また精神疾患的なものでないという確実な診断が出てくれば、霊的問題性を意識して霊的にアプローチしなければならない、と強調する。(ユー・ファジャ、107)

悪霊達の活動が地上人に病気を起こす点は心象療法、NLP 療法、「秘密」、心身医学、源泉医学ではほとんど注目しないか、わずかに関心を持っているかである。しかし、み言葉医学では悪霊たちの問題を深刻に認識しており、全人治療以前に霊性治療を通して、霊的要因を先ず整理整頓することによって治療効果を増進させることができるを見る。

2. 源天と学問医学としての源天医学

1) 源天医学の背景と特徴

源天医学財団は人類が源天を回復して、源天宇宙と源天環境と源天人倫を成し遂げなければならないと主張する。大宇宙と大自然と大人類が源天を成さなければならない、源天の中では人類が源天的に良く生きることができるというのである。従って源天に帰一すれば

人間は病気せずに健康に生きることができる。

源天医学は当初の健康状態、すなわち源天に戻そうとする医学である。源天医学は大宇宙と大自然と大人類に共通に存在する普遍的な存在原理（共通分母と成功公式）を追求する過程で出現した。源天医学の驚くべき治癒効果はこのような大宇宙と大自然と大人類の普遍性から始まるということが出来る。

2) 源天医学の病気治療原理

源天医学は一般的な代替医学とは異なって、いろいろ固有な特性を持っている。源天医学の治療は、源天→存在原理→治療原理（治療段階+治療法則+治療エネルギー）→快癒・完治、すなわち源天から存在原理が導き出されながら、存在原理から治療原理を探して、快癒・完治に至る。源天は存在者の究極的原因、すなわち第一原因（根源、根）であり、存在原理は大宇宙・大自然・大人類の共通分母（12種の知能）と成功公式（12種の意識構造化）である。治療原理は治療段階ごとに治療法則を適用するが、治療エネルギーを同時に活用する。

(1) 源天、存在原理（共通分母、成功公式）

源天医学は源天に根源を置く医学であり、源天から大宇宙と大自然と大人類の共通分母と成功原理を導き出して、これを病気治癒の原理とし、その治療原理自体で病気を快癒・完治する医学（源天→存在原理→治療原理→快癒・完治）である。従って源天医学は物質を中心とする医学ではなく、存在原理・真理それ自体を中心とする医学である。そのような点で源天医学は学問医学であり、学問的に診断して治療し、予防する医学である。

源泉医学は薬、手術、鍼、灸、食品、放射線、レーザーなど物質的手段を一切使わないで、習得した学問のみで、容易に副作用なしで、肥満、高血圧、糖尿、癌、前立腺、甲状腺、白血病などの不治の病を患者が自ら治療する。学問は物質ではないので視空間や環境の影響を受けない。従って源天医学はいつ、どこでも、どんな環境でも自ら活用することができる。そして源天医学は宗教と関連がなく、気や超念力、丹田呼吸や指圧、催眠術、マインド・コントロール等とも関係がないことを明らかにしている。

源天医学は源天から始まった大宇宙・大自然・大人類の共通分母（12種の知能）と成功公式（12種の意識構造化）から出発する。12種の共通分母（普遍的主題）は、①情緒 ②任務 ③模範 ④統率 ⑤創意 ⑥自発 ⑦同参 ⑧社会 ⑨神経 ⑩精神 ⑪身体 ⑫方向である。しかし、これら12種類は別別に存在するのではなく、相互密接な関係を持っており、その相互関係および相互作用がまさに成功公式（存在原理）だと見る。

12種の知能と12種の意識構造化に色々な作用原理が共助すれば、人類・宇宙・自然は安定と調和を成し、繁栄・発展するようになる。源天医学は12種の知能の中で、神経（#9）、精神（#10）、身体（#11）を三大疾病課、すなわち神経性疾患、精神的疾患、身体的脆弱部分と規定する。疾病課は初めに強制してでも循環させなければならず、訓練し続ければそのまま回転することによって、結局高難度の核融合法に到達するようになり、難病が治

療される。

(2) 整脳法と整臓法、Power1 と Power 2

12 種の共通分母が持つ相互関係と相互作用の総体的姿が脳の構造と機能に主体的役割を果たすようにする訓練法を 12 種意識構造化すなわち整脳法という。そしてこのような脳が中枢神経→末梢神経を通して、各臓器（脳を除いた器官・組織）の構造と機能に主体的役割を果たすようにする訓練法を整臓法という。12 知能意識構造化を成した脳が神経を通して臓器を主管するということは各臓器と細胞も 12 知能と 12 知能意識構造化を成さなければならないことを意味する。

整脳法→整臓法を通して、精神→神経→身体、すなわち人間の心と体が全体的に 12 種の知能（普遍的共通分母）をそなえ、また 12 知能意識構造化（成功公式：完全な対称性と統一性）を成す時、完全な治療、すなわち真の健康を保つようになる。源天医学はこのような治療方法と健康法が大宇宙と大自然と大人類の存在原理に順応する道だと見ている。

そうして源天医学は整脳法と整臓法で体全体の代謝を円滑にする。すなわち整脳法を実施して、痛い部位の脳神経細胞から良くなるようにする。その次に、整臓法を実施して、脳（中枢神経）から痛い部位に降りてきて、難治・不治の細胞をなくしたり、健康な細胞に変換させることによって治癒する。

そして源天医学は大宇宙パワーたる Power 1、Power 2 を整脳法と整臓法に適用して、体全体の代謝を円滑にする。脳波が超高速で動いている状態のパワーを Power 1 という。Power 2 は太陽の核融合による高熱（数百万度以上）と電磁気的エネルギー、地球のエネルギー、月のエネルギーを一つに集めて Power 1 によって混合したものとして、無色・無臭であり、固体・液体・気体の形態に自由に変形可能で、食べて飲むこともでき、塗ることもできる。Power 1 が速度に関連したパワーとすれば、Power 2 はエネルギーや物質に関連したパワーである。

(3) ON/OFF、二源同相原理

一般的な代替医学と同じように、源天医学は信仰心と確信を重要視する。すなわち持続的で絶対的な ON（連結、接続、確信）の状態が要求される。ON にスイッチを置けば、火がついて、明るい状態で物を探することができるが、OFF は連結がなされていない断絶した状態、すなわち疑心や不信の状態なのでそのようにすることができない。源天医学的治療過程では ON 状態を持続的かつ絶対的に維持しなければならない、このためには自己のすべての主観的思考方式を捨てて源天医学の講義→修練→実技に没頭し、源天医学の理論と効果を 100%信じて従わなければならない。

二源同相原理は二つの内容を比較しながら、一つの希望事項に変換させる原理である。すなわち一方には希望事項（健康状態）、他方には現在の悪い状態（病気状態）を連想してイメージ化した後、現在の悪い状態を希望状態に変換させる原理である。

(4) 三大原則、重病治療四大原則、五次元世界・脳波

源天医学は心（精神）を中心とする医学体系なので、自己暗示的信仰心と確信が絶対重要である。これを実践するのが三大原則である。源天医学は修練（15分内外）と実技（5分内外）を終えた後、大きい声で三大原則を復唱して力強く拍手する。「はい、病気が治ることを願います。」 「はい、病気が治りつつあります。」 「はい、さすがに病気がすべて治りました。」このような点は「秘密」でも強調している。

そして源天医学は重病治療の四大原則、すなわち加圧法、高電圧消尽法、手術法、DNA法を活用している。加圧法は親指で押してなくすものであり、高電圧消尽法はナノ技術以上の細密な線で4億5千万ボルトの高電圧を流して、病原菌をひとつひとつ燃やしてなくす。手術法は病気に関連した臓器の部分を細かく分解してなくす治療法であり、DNA法は病気の細胞の細胞核中にあるDNAを人体に有益なDNAに変える。もちろん心ですべての過程を実施するのである。

源天医学はこのような治療に加えて、五次元の世界と五次元の脳波を重要視する。存在世界は五次元世界、すなわち宇宙界、霊界、虚空界、道界、精神で成っており、相互関係を結んでいるので、病気治療はこのような五次元の世界の中で五次元の脳波が共に作用すると見ることができる。人の脳ではデルタ波（0-3Hz：無意識世界、昏睡状態）、シータ波（3-7Hz：手術、分娩、麻酔状態）、ベータ波（7-14Hz：現実物質世界）、アルファ波（14-27Hz：正精進没入、潜在意識、夢、修練、祈祷中である時）が発生したものとわかる。源天医学ではオーバーライン波（27-60Hz：死之生之）を追加して、五つの波が整脳法と整臓法を進行する間に放射されると見る。

(5) 六大原理、人類史回生法

源天医学の実技段階では六大原理が重要である。六大原理は頂髓里（白灰、デルタ波）→後頭部と首の連結点（シータ波）→眉間（眉間、アルファ波）→鼻の下（ベータ波）→両側の貫子（オーバーライン波）→両側の首の順で加圧することで、これは整脳法を実体化あるいは補完する機能と言えよう。脳（神経）を中心とする六大原理に続いて進行する実技動作は全身（臓器、組織）を順次的に加圧およびマッサージをし、これは整臓法を実体化あるいは補完する機能だと見ることができる。従って修練（内的、心）と実技（外的、肉体）は統一原理の二性性相と同じ立場で相互補完の相補的役割をしている。

源天医学のまた別の特異点は人類史回生法である。人間の大部分は誕生の時は健康で、本能的に子供は Super Ability（善に該当）と Super Capacity（悪に該当）を作って、病気の浸透を防御、制裁、勝利することができるように準備する。

人類史回生法は父母の受精→胎児→誕生→成長→現在に至るまで、人生を振り返りながら健康でなかった瞬間を治癒して、元気だった瞬間を回生させる訓練とすることができる。量子医学で重要年齢別健康状態を診断することによって、病気の由来を探して治療するように、源天医学でも人類史回生法を整脳法と整臓法によく適用させれば、現在の病気を招いた特別な原因とその時間的過程を追跡することによって、病気治療の効果を向上させ

ることができるはずである。

III. み言葉医学の理解

1. み言葉医学の概念と意義

1) み言葉医学の概念

み言葉医学 (Word medicine) は墮落によって生じた病気を「神様のみ言葉」で治して、創造本性を回復し、本然の人間 (真の愛、真の生命、真の血統の実体) を作り出す医学である。み言葉医学は天の心 (天心：神様の心、神様のみ言葉の中に内在、本性相) と原力 (原力：神様のエネルギー、本形状) を共に考慮する。すなわち、み言葉医学には天心と原力が共に作用している。み言葉医学は神様のみ言葉 (天心) を通じて、人間に内在する天心と原力を刺激して、啓発しながら、発育させて、自然治癒力が自ら病気を治療するようにする。

み言葉医学には「み言葉師」の概念を導入する。み言葉師は信仰的・精神的・生活的病気だけでなく、一歩進んで肉体の病気、例えば、肥満、高血圧、糖尿、癌、白血病、甲状腺、前立腺、アルツハイマー等までも神様のみ言葉で治療する専門家である。このような不治の病は外部の原因による病気や短い期間に形成される病気ではなく、日常生活、内部の代謝、心身関係、霊肉関係などによって、長期間にわたって形成される慢性疾患である。すなわち、永らく神様のみ言葉から離れた生活をすることによって、自然治癒力 (天の心、原力) が徐々に弱まったり、誤ってできた結果ということができる。

源天医学の場合、学問だけでこのような病気を治療した事例がたくさんあるが、み言葉医学は神様のみ言葉を中心として、第一原因たる神様の天心と原力、神様の創造原理、人類の墮落と神様の復帰原理、霊界と肉界の統一的宇宙世界、真の愛と三大祝福などを中心として、より根本的次元で病気を理解して治療する医学であるといえる。

2) み言葉医学の意義

み言葉医学は神様のみ言葉自体を中心として診断と治療をするから、霊性医学、源天医学、心象療法、NLP 療法、「秘密」のように、物質的手段、すなわち薬、手術、鍼、灸、食品、放射線、レーザー等は使わない。神様のみ言葉は時間と空間と物質的環境に影響を受けないで誰にでも適用される普遍性を持っているので、誰でも神様のみ言葉に立脚した病気の診断と治療システムだけ習得すれば、時間と空間および環境の制約を受けず、医療装備や医療器具あるいは特別な食用薬品なしで、自ら病気を治療できるようになる。

み言葉医学は神様のみ言葉自体の理解と実践を通して病気を治療することによって、このような創造本然の人生、すなわち真の健康 (統一健康) を指導するだけでなく、創造理想世界実現に寄与するのである。言い換えれば、み言葉医学は既存の医学、全人医学、霊

性医学を内包しつつ、「完全な神様のみ言葉」に立脚して、病気治療はもちろん、地上人と霊人が皆一緒に自ら真の健康（創造本然の人生）を探して、健康→幸福→平和を通した理想世界（天一国、神の国）定着に主体的に参加するようになるところにある。

2. み言葉医学の病気治療の可能性

1) 神様のみ言葉による生命性と病気

神様は先に具体的な青写真（計画、構想）を立て、それにより被造万物の一つ一つを創造された。その青写真は神様のみ言葉であり、「創造に関する神様の思考、構想、計画」である。故に、み言葉は創造の能力を持っている。神様のみ言葉は神様が信仰と共に創造原理を通じることができる実体を作るためのものである。故に、神様のみ言葉は漠然としたものではなく、原理による、原則を通じたものであり、具体的な設計図である。

病気は神様のみ言葉を失って神様のみ言葉のままに考えたり、感じたり、行動しなかったために発生しているといえる。すなわち病気というものは、存在の目的と法度と理想から離れた状態なのである。もし完全無欠で全知全能な第一原因たる神様の創造原理のとおり生活するならば病気は発生し得ない。

2) 神様のみ言葉の病気治療の可能性

神様のみ言葉で病気を理解して分析しながら、み言葉で病気を診断して予防するのは可能なことである。ところで神様のみ言葉は物質でなく、エネルギーでもなく、無形である。このような神様のみ言葉で重病らを‘治療’するということは理解するのが容易でない。一般的に病気はどんな物質的手段を使って、治療するのに果たしてみ言葉（真理）自体が肥満、高血圧、糖尿、癌、甲状腺、前立腺炎、白血病、アルツハイマー病など特に慢性的で不治という重病らを治療することができるだろうか？

もちろん瞑想療法、心象療法、NLP療法、霊性医学、源天医学なども物質的手段を使わないのに軽い病気を治療する。特に清平役事はいかなる物質的内容物・器具・装備なども使わずに霊人たちと関連した重病を神様のみ言葉に立脚して治療してきた。すなわち清平役事による多くの病気治療の事例は神様のみ言葉自体が重病を治療することができるという証拠を見せている。

病気（堕落）は神様のみ言葉（創造）から離れることによって生じたので、病気治療（復帰）も神様のみ言葉でその根本的方法を探さなければならない。神様のみ言葉自体はすべての存在のための目的と法度と理想が入っていて、創造の能力を持っていながら、実体を作る具体的な計画が含まれているので病気を正すことができる治療能力がある。代替医学で強調する自然治癒力は人間に先天的に治癒能力が内在していることを意味しながら、これは存在の設計図になる神様のみ言葉自体に治癒能力があることを示唆している。自然治癒とは病気を治癒する力は自ら存在するという意味で、同時に自らより良いという意味を持つ。すなわち自然的で自主的であり、内在的な自然治癒力によって治療されるということ

である。

従って神様のみ言葉は病気を治療できる能力を持っている。神様のみ言葉は被造万物を創造した創造性と創造能力を持っているので、自然治癒力を発揮する。自然治癒力（天心、原力）は生命力、すなわち自発性、恒常性、成長性、繁殖性を持ち、病気を自ら治療できる能力を持つ。

IV. み言葉医学の病気治療原理

1. み言葉医学の治療概要

み言葉医学は病気の根源的発生原因を創造本然世界と墮落世界の観点から考察して、復帰摂理の観点から健康状態に復帰するところにある。すなわち、み言葉医学は神様のみ言葉で病気を診断し治療する。病気治療にあつて西洋医学と東洋医学の生理学と病理学を考慮して、代替医学の瞑想療法・心象療法・NLP療法・量子医学・マッサージ療法なども部分的に活用する。

み言葉医学の治療は神様（み言葉）→創造原理（創造目的、創造法則、創造理想）→治療原理（治療段階+治療法則+治療エネルギー）→快癒・完治、すなわち神様（み言葉）から創造原理が形成されるのであるが、これから治療原理を導き出して、快癒・完治に達する。創造原理は天心と原力が含まれた神様のみ言葉から始まり、神様の性稟（神性）と存在原理から具体化された創造目的・創造法則・創造理想を内包する。創造原理は神様（創造主、第一原因者）と人間（地上人、霊人）と万物（大宇宙、大自然）が霊界と肉界において真の愛で統一と調和を成した三大祝福で要約される。治療原理は治療段階ごとに治療法則を適用して治療エネルギーを活用する。

2. み言葉医学の治療内容と段階

1) み言葉医学の治療内容：全人治療

(1) 霊人の治療

本然の人間（地上人）は霊人体と肉身在 1:1 で結合をして、一つの統一された人格体を形成しなければならない。しかし墮落人間の場合、自分自身（宿主のような立場）の霊人体以外に色々な霊人たち（他人、寄生のような立場）が自身の肉身に居住して相対基準を形成して、霊人体と肉身に影響を及ぼす場合が多い。いわゆる多重人格の現象が現れる。

この場合、寄生の立場の他霊人（悪霊）が地上人（宿主）の肉身に居住しながら、自己の感情（情、感じ）、知性（知、思考）、意志（意、欲望）のままに、地上の（宿主）の生心と肉心に悪影響を与える。そしてこのような生心と肉心は肉体の神経に悪影響を与えて、細胞と器官と器官系の機能を制限・麻痺させ、地上人（宿主）の意と関係なく、自身（寄生者）の意のままに行動するようにそそのかす。精神疾患を含む各種の病気はこのよう

メカニズムによって発生する場合が多い。このような病気は全面的に霊人たち（特に恨霊、悪霊）により発生したので、関連した霊人たちだけ分立してやれば病気は治療される。すなわち恨霊、悪霊の分立と復帰が必要である。

悪霊たちの悪い影響を分立し、究極的には彼らを神様の真の愛とみ言葉で変換させる過程が清平役事を通した霊分立と先祖解怨および先祖祝福である。神様のみ言葉で教育して、創造本然の性稟（せいひん）を回復させてやり、祝福まで受けさせて絶対善霊にしてやってこそ、地上人は彼らを原因とする病気や苦痛から根本的に抜け出すことができる。

(2) 地上人の心身治療

地上人（地上の人間）は霊人体と肉身で構成されている。霊人体は中の人として肉身に對して主体的役割をし、心の部分（生心）と体の部分（霊体）で構成される。霊体は靈的エネルギーと靈的物質で構成され、永生をするようになり、視空間と物質的制約を超越するので、肉的物質や環境の影響を受けない。

反面、肉身は表面の人として霊人体に對して对象的役割をし、心の部分（肉心）と体の部分（肉体）で構成される。肉体は肉的エネルギーと肉的物質で構成されて、視空間と物質的制約を受け、細胞と器官が老いれば自然に土地に帰る。既存医学は肉心と肉体、霊人体と肉身、生心と霊体、肉心と肉体などの相互関係に別に注目しないている。

(3) 生心・肉心の関係から見た健康と病気

第一祝福的健康を成した人の生心は神様から生素をよく摂取する。生素の中には人間の創造本然的価値と品格、そして存在目的と存在法度が含まれている。それ故、生素は人間に必ず必要な必須的・本質的栄養素であり、み言葉医学の核心かつ中心である。

生心は真善美と愛の生活、すなわち価値生活を追求するので、生心が健康であろうとするなら、まず神様から生素を受けなければならない。その次に、生心は肉身の生（生活）を通して作られた「実体化された生素」をよく摂取しなければならないのであるが、このためには生素が入った生霊要素を肉身に供給しなければならない。言い換えれば、生素を肉身の生（生活）の中で中心にして、この生素を中心として肉身の活動をなさなければならない。

肉心は生心の対象の立場で生素を摂取することによって、生素と生心を中心とした肉体の生理的機能を維持するようになる。肉心には内的性相に似た低次元の情・知・意の機能と（統一思想、107-109）、内的形状に似た自発性、恒常性、成長性、繁殖性がある。また肉心には内的形状と関連した衣、食、住、性、睡眠に対する欲望でも、あるいは物質的な生活を追求する欲望、あるいは眠たさ、疲労、暑さ、寒さなどに対する感じのようなものがある（統一思想、233）。肉心の内的性相および内的形状の側面が共に完全な時、肉心は健康である。

(4) 肉心・肉体、霊人体・肉身の関係から見た健康と病気

生素-生心を中心点（求心点、主体）として立てた肉心は肉体と二性性相関係、授受作用、正分合作用を通して、肉身（合成体）を形成する。この時、肉体のすべての細胞と組織と器官および器官系は生素を中心として存在-作用-繁殖をして、神様を中心に動じ静する有機体としての健康状態を維持する。肉体の健康は肉身の健康の土台になるが、肉体の健康のためには、肉心→肉体の方向性が重要である。

肉体の主体的役割は神経系であるので、肉心はまず神経（頭脳、脊髄）に対して主体的立場で作用し、神経は中枢神経で情報収集-判断をして、末梢神経系あるいはホルモン系を通して、身体の器官-細胞に命令する。それ故、肉体が健康であろうとすれば、生心→肉心→神経→器官→細胞の体系（hierarchical system）を作らなければならない。

2) み言葉医学の治療段階：整霊法、整心法、整脳法、整臓法

み言葉医学の治療段階は源天医学のように、診断評価→講義→修練→実技とし、診断評価は最初に一回実施し、講義では神様のみ言葉に基づくみ言葉医学の概念と治療原理と治療方法について説明する。修練と実技は整霊法（霊人の分立-解怨-祝福）→整心法（生心と肉心の整理整頓）→整脳法（脳の整理整頓）→整臓法（臓器の整理整頓）で行い、整霊法は清平修練を通して、別途に行い、残りは自ら毎日実施する。

(1) 整霊法

治療は先ず自然界の視空間と物質的限界を超越して霊的に存在しつつ、強い怨恨と悪意で病気を発生させている霊人たちを整理することが必要である。本論文では霊人たちを整理-整頓-整列-整備-調整することを便宜上、整霊法と呼ぶ。前に考察したように、恨霊や悪霊は怨恨と悪意がとても強い霊的な存在であって、物質的影響もほとんど受けないので、薬、鍼、灸、手術、医療装備などでは治療にならない。清平役事は神様のみ言葉でそのような霊たちを説得し教育して、解怨式と祝福式を通して根本的な次元で治療している。

(2) 整心法：整心法1→整心法2

霊人たちの病気の要因を整理した土台の上で、地上人自体の病気を治療する時、治療効果は大きくなる。地上人自体の病気は霊人体と肉身、心（精神）と体（肉体）、神経（主体）と器官/細胞（対象）を共に考慮して、神様のみ言葉に従って治療しなければならない。心（生心、肉心）を正しく整然となるように整理・整頓・整列・整備して正す整心法は神様の生素に満ちた生心（整心法1）、このような生心と一つになった肉心を正しく立てる（整心法2）治療法である。

三大祝福、創造法則、復帰法則、後天時代などの心情的土台の上で、感じ（情）、考え（知）、決心する（意）。これは生心の内的性相を正しく立てる訓練である。そして三大祝福、創造法則、復帰法則、摂理、み旨を中心として、観念、概念、法則、数理性も吟味する。これ

は生心の内的形状を正しく立てる訓練といえる。さらにこのような生心を中心として肉心の内的性相（情、知、意）と内的形状（自発性、恒常性、成長性、繁殖性）を吟味する。整心法を通して病気に大きい影響を及ぼすストレスを解消することができる。

(3) 整脳法と整臓法

心（精神、主体の立場）を整理した土台の上で、体（肉体、対象の立場）を整理しなければならない。しかし肉体の主体の役割は脳を中心とした神経（中枢神経、末梢神経）が行うので、脳を整理する整脳法が必要で、整理された神経を中心に器官/細胞（対象の役割）を整理する整臓法がまた必要である。従って地上人自体を原因とする病気は整心法 1→整心法 2→整脳法→整臓法の順序に従って治療する。このような概念は源天医学の整脳法と整臓法を統一原理的に解釈して発展させた概念といえる。

整脳法は脳を中心として神経（中枢神経、末梢神経）を正しく立てる治療法である。生素を中心に整理された生心と肉心が中枢神経（大脳、脳幹、小脳、脊髄）に主体的に作用するようにする。特に大脳の前頭連合領、扁桃体、海馬体などが心情、情、知、意に適切に反応するように訓練する。

そして整臓法は整理された神経が器官・細胞に正しい影響を与えるようにする治療法である。すなわち整心法によって整理された中枢神経を中心として末梢神経（12種の脳神経、体神経）が中枢神経の判断と命令を機関・細胞（臓器）に伝達して、代謝機能（二相性相、授受作用、正分合作用による組織化、相互作用、分泌など）がよく進行するようにし、一方では機関・細胞の状況を収集して、中枢神経に伝達するように訓練する。み言葉医学はこのような整心法、整心法、整脳法、整臓法を通して病気を治療する。

3. み言葉医学の治療法則

治療法則は創造法則と復帰法則を共に適用する。創造法則には天心、原力、真の愛、二性性相、授受作用、正分合作用、四位基台、三大祝福など七種類、復帰法則には終末、重生、復活、予定、蕩滅、復帰歴史、解放定着など七種類を適用する。

1) 創造法則による治療

神様は内的形状として観念、概念、法則、数理性を持っており、創造法則はここから始まった。人間と万物は創造法則に従って創造されたので原理原則に従っていかなければならない。「人間と万物、人間と人間、人間と天の間にも厳然な創造原理的關係が予知予定されているのです。」（神経、11章）

(1) 天心と原力による治療

神様は内的属性たる心（天心、本性相）と外的属性たるエネルギー（原力、本形状）を共に持つておられるので、神様から始まったすべての存在は天心と原力を基本的に持つよ

うになる。従ってみ言葉医学は神様の天心と原力を治癒の第一原理とする。

墮落とは人心が天心と一つになることができないことであるから、病気も天心と人心が一つになることができず、天心が主体的な影響を与えることができなかつたためであると言える。み言葉医学はこのような天心が人間の心と体、霊人体と肉身に内在しており、自然治癒力の性相的部分として作用すると見る。

次は原力による治療を調べてみる。原力は作用を起こさせることができる自体の力であり、すべての核を連結させることができる力である。それ故、原力は宇宙の根本的な力であり、宇宙の根源である。み言葉医学はこのような原力が人間の心と体、霊人体と肉身に内在しており、自然治癒力の形状的部分として作用すると見る。源天医学の **Power 1** と **Power 2** は原力と関連があるという。み言葉医学では **Power 3** (**Power 2** + 霊的エネルギー) を導入する。

(2) 真の愛による治療

み言葉医学では真の愛が最も核心的な役割をするようになる。真の愛はすべての病気の天敵であるから真の愛ですべての病気を治療することができる。真の愛は自然治癒力を増強、促進する心の要因、すなわち肯定的な思考、希望、感謝、喜び、容赦、和解などの心の中で最も強力な促進因子である。

量子医学、「秘密」、心象療法、NLP 療法、量子医学、源天医学などの治療法にもその内面には真の愛の存在原理が暗示されている。み言葉医学では天心の最も本質的な属性であり、原力の性相的主体になる真の愛こそ最も強力な自然治癒力だと見る。

相対と全体のために喜びを持って条件なしに持続的に投入する真の愛は恒常性と自発性と成長性と繁殖性の動因になるためである。

(3) 二性性相、授受作用による治療

第一に、み言葉医学は二性性相によって治療する。

性状と形状は同一なる存在の相対的な両面を言い表しており（講論、23）、性状-形状は互いに内-外、原因-結果、主体-対象、縦-横などの相対的關係を持っている（講論、24）。

陽性-陰性も性相-形状の關係と同じく、内-外、原因-結果、主体-対象、縦-横の關係を持っている（講論、26）。病気はこのような二性性相的根本原理からはずれた時にも発生する。従って、み言葉医学はこのような根本的存在原理を病気治療に適用する。前に言及した整霊法→整心法→整脳法→整臓法などは、その内面に二性性相の存在原理を前提としている。

第二に、み言葉医学は授受作用によって治療する。

み言葉医学はこのような授受作用の原理によって治療する。源天医学の ON/OFF 概念は二性性相と授受作用的關係を切らないで持続することと見ることができる。東洋医学で氣血の流れを重要視するのもこの授受作用と関連がある。み言葉医学の治療法の整霊法、整心法、整脳法、整臓法の各々には授受作用が作用して、力（生存、作用、繁殖）が発生し

ている姿をイメージ化して感じる。

(4) 正分合作用、四位基台、三大祝福による治療

第一に、み言葉医学は正分合作用によって治療する。

み言葉医学は（正）（原因、出発点）→「分」（過程）→「合」（合成体、結果）という「正分合」作用を通して治療する。神様のみ言葉の中の天心が「正」に定立すれば、生心と肉心、肉心と中枢神経、中枢神経と末梢神経/ホルモンによって、細胞内の核、リボソーム、ミトコンドリア、リソソームなどで「分」の過程（代謝）が進行して、合成体（合、分泌物、生成物など）が生成される。整霊法、整心法、整脳法、整臓法が進行する間、正分合作用によって合成物（分泌物）が生成される状況を生き生きと描いてみて感じながら、確信の決心もする。源天医学の三大原則は正分合作用の一つの姿でもある。

第二に、み言葉医学は四位基台によって治療する。

四位基台の中には二性性相、授受作用、正分合作用、三対象目的が溶解しているので、四位基台は統一と調和と対称のある躍動的でアンサンブル的な構造である。四位基台には二性性相、授受作用、正分合作用、12対象目的が皆内包されている状態なので、み言葉医学において四位基台的治療はホリスティック（holistic）な意味を持つ。天心と原力を中心に整霊法、整心法、整脳法、整臓法の各々において、真の愛を中心に12対象目的が具現され、四位基台が立体的、統一的、対称的に成り立つ状況を描いてみて、感じながら、確信してみる。

第三に、み言葉医学は三大祝福によって治療する。

み言葉医学は12の主体を生心と肉心そして肉体（神経と臓器）の中心に立てることによって治癒の土台を形成する。この12の主体は相互密接な関係を持ちながら、全体的に統一と調和をなしている。この12の主体と三大祝福的關係は源天医学における12種の知能と12種の意識構造化と類似の概念である。

2) 復帰法則による治療

病気は墮落の結果なので創造本然の状態（原理講論の第1章創造原理）の健康を取り戻そうとするなら、墮落的要素（第2章墮落論）を復帰法則（第3章から後編第6章まで）によって清算する治療の過程が必要である。統一原理は墮落の結果による墮落性本性と罪悪を重要視するが、み言葉医学では病気の原因になる墮落性本性と罪悪を考慮して治療するようになる。

み言葉医学では墮落性と罪悪による病気を整霊法、整心法、整脳法、整臓法を通して治療するのであるが、その治療過程では創造法則と共に、復帰法則も活用するようになる。すなわち、み言葉医学では終末、重生、復活、予定、蕩滅、復帰歴史、定着など七つを復帰原理で選択して病気治療に適用する。

病気状態→健康状態に復帰するためには、源天医学、心象療法、NLP 療法、「秘密」におけると同じく、病気状態と健康状態についての明らかで具体的なイメージを描かなければならない。心にこのようなイメージを描いておいた状態で、整霊法→整心法→整脳法→整臓法を通して、病気の状態と部位を健康な姿に変えていく。この時絶対に必要なことは治癒しようとする強い熱望と絶対的な確信（ON 状態）が持続的に必要で、言語と行動もこれに符合するように取捨選択しなければならない。

V. 結論

本研究でみ言葉医学とその適用に関して議論したことを要約すれば次のようになる。

第一に、み言葉医学は神様のみ言葉によって病気を診断して、治療し、予防する医学である。神様のみ言葉は二段階創造の第一段階で生成されたロゴス（構想、blueprint）すなわち天心の内的性相と内的形状の合成である。み言葉医学は天心の内的性状と内的形状を基本とする。

第二に、み言葉医学はすべての存在には神様のみ言葉が内在しているとする。森羅万象は二段階創造の第二段階で神様のみ言葉（本性相）と原力（本形状）により創造されたので、すべての存在には神様のみ言葉、すなわち天の心が内在する。み言葉医学は神様のみ言葉の遍在性を前提とする。

第三に、み言葉医学は真の健康を神様のみ言葉によって生きる姿とし、病気を神様のみ言葉から離れた状態とする。真の健康は神様と人間と万物が真の愛で調和を成した三大祝福的人生の姿であり、病気は三大祝福の通りに生きなかった結果である。

第四に、み言葉医学は神様のみ言葉を通じた病気の診断と治療と予防が最も完全だと見る。み言葉医学の治療概念は、神様（み言葉）→創造原理（創造目的、創造法則、創造理想）→治療原理（治療段階+治療法則+治療エネルギー）→快癒・完治、すなわち神様（み言葉）に基づいた創造原理から治療原理を導き出して快癒・完治する。

第五に、み言葉医学は神様のみ言葉が病気を治療できる能力を持っているとする。神様のみ言葉は被造万物を創造した創造性と創造能力を持っているので、自然治癒力を発揮する。従ってすべての存在は自然治癒力（天心、原力）によって、自発性、恒常性、成長性、繁殖性を持つようになる。神様のみ言葉によって、自然治癒力は病気を自ら治療することができる。

第六に、み言葉医学では病気を霊人と地上人の全人的姿を共に考慮して、整霊法→整心法（整心法 1→整心法 2）→整脳法→整臓法で治療する。これは霊人→心（生心、肉心）→中枢神経→末梢神経/ホルモン→臓器（標的細胞）に基づく。治療とは病気（堕落状態）→健康（本然状態）に復帰することであり、創造法則と復帰法則を共に適用して治療する。この治療方法は純粋な学問だけでなく多くの重病（不治の病）を治療してきた源天医学の治療原理を統一原理的に分析・発展させたものであり、西洋医学と東洋医学および代替医学の長所も受け入れるものである。

参考文献

- カン・ギルチョン、ホン・タルス、『量子医学』、親環境農業フォーラム、2007.
- クボ・チハル、『統合心身医学』、第2版、パク・セビョル、ビョン・グァンホ訳、ハナ医学誌、2008.
- キム・ジンチュン、『真の父母のみ言葉：八代教材・教本』、清心神学大学院大学校教材（未出版）、2010.
- _____．“統一医学的糖尿治療方案”、第7回統一医学定立のための国際学術会議（2010.7.17.）、清心国際病院および日本一心病院共同主催.
- 文鮮明先生み言葉編纂委員会．『文鮮明先生み言葉選集』、第1巻一第548巻、ソウル：成和社、2010.
- 世界キリスト教統一神霊協会、『原理講論』、ソウル：成和社、1994.
- _____．『成約時代の清平役事と祝福家庭の道』、ソウル：成和出版社、2000.
- 世界平和統一家庭連合．『平和神経』、ソウル：成和社、2009.
- _____．『天聖經』、ソウル：成和社、2005.
- バン・トクチン、『現代人の健康管理』、ソウル：シン・クァン出版社、1999.
- シン・サンベ、『源天医学教育教材』、源天医学財団、2010.
- オク・チサン、『代替医学総論』、地球文化誌、2009.
- ユー・ファジャ、『霊的戦争と治癒』、ソウル：キリスト教改革新報社、2005.
- 李相憲、『霊界の実相と地上生活』、ソウル：成和出版社、2000.
- イ・ウンチョル、コ・ウネ、『自然治癒学』、アートハウス、2008.
- チャン・カプヒョン、ビョン・グァンホ、『体の病気を治そうとするなら、心を先ず治さない』、ハクジ社、2006.
- チョン・セイル、『補完代替医学』、慶祝文化社、2004.
- 天宙清平修練苑、“興進様大母様み言葉検索”、web、2010.
- 統一思想研究院、『統一思想要綱』、ソウル：統一思想研究院、1992.
- R. Byrne、『秘密』(The Secret)、キム・フヨル訳、暮らし出版社、2009.
- E. Marieb、『人体構造と機能』(I)、チェ・ミョンエ他編集、慶祝文化社、2003.
- M. Rauland、『脳科学で解いてみる感情の秘密』、チョン・オクレ訳、東亜日報社、2008.

御言医学的 治療

病氣管理 → 病氣治療

= 既存医学(西洋, 東洋代替) + 全人医学 + 靈性医学

